

西会津町子ども読書活動推進計画 (第4次)



令和8年3月

西会津町教育委員会

目 次

第1章 計画策定の基本的な考え方	1
1. 計画策定の目的	1
2. 子どもの読書活動の現状と課題	1
3. 第三次計画の数値目標と実績	3
4. 計画の位置づけ	3
5. 計画の期間	4
第2章 基本方針	4
1. 子どもが読書に親しむ機会の提供と充実	4
2. 子どもの読書環境の充実	4
3. 子どもの読書活動への理解の促進	4
第3章 子ども読書活動推進のための方策	4
1. 家庭における読書活動の推進	4
2. 図書館における読書活動の推進	5
3. 学校等における読書活動の推進	6
(1) こども園	6
(2) 学校	6
第4章 関係機関との連携	7
第5章 啓発・広報	7
第6章 数値目標	7

【資料】 (子どもの読書活動の推進に関する法律)

第1章 計画策定の基本的な考え方

1. 計画策定の目的

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きていく力を身につけていく為にも欠かすことのできないものであるとともに、乳幼児期の読み聞かせから始まる子どもの読書活動は、知的、情緒的、精神発達のにも大きな役割を果たし、心身ともに健やかに成長していくために重要なものです。

本町では、国が平成13年12月に制定した「子どもの読書活動の推進に関する法律」及び平成20年3月に閣議決定した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の趣旨に基づき、平成23年3月に「西会津町子ども読書活動推進計画」第一次、平成28年3月に第二次計画、令和3年4月に第三次計画を策定し、多様な取組みを進めてきました。その結果として、様々な成果を上げた一方、課題も見られます。

そこで、国・県の新しい基本計画及びこれまでの取組みや成果と課題を踏まえ、子どもの読書活動に関する総合的、計画的な施策の推進を目的として第4次計画を策定します。

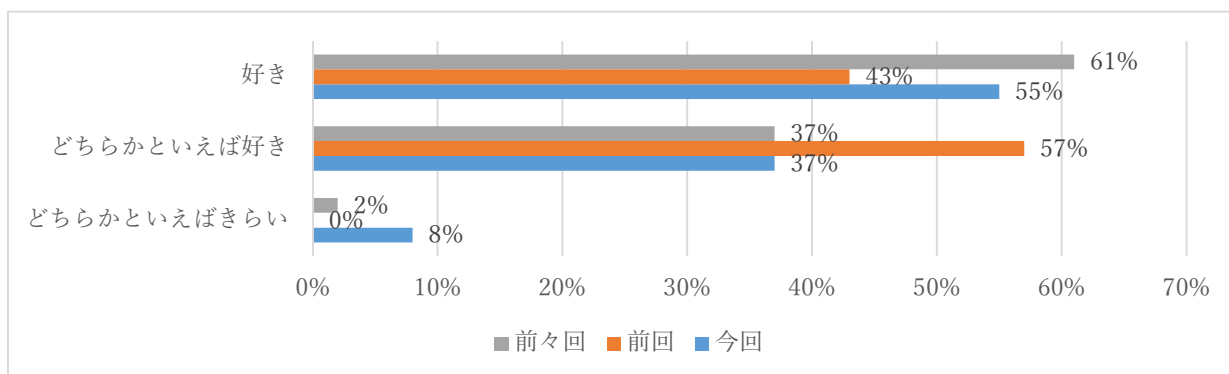
2. 子どもの読書活動の現状と課題

本町では、現在、認定こども園（以下こども園）の乳幼児や小中学校の児童生徒を対象に「読み聞かせ」を実施しています。また、中学校においては、「熟読」の時間を設けてビブリオバトルに取り組んでいます。この取組みにより、本を読むだけでなく、内容をより理解し、他の生徒に紹介するプレゼン力の向上につながっています。さらに、西会津中学校図書館（以下西中図書館）において、乳幼児に読み聞かせを行う「おひざにだっこの会」や本に親しんでもらうための各種事業を開催し、読書活動の充実に力を入れてきました。

その結果、コロナ禍により減少した児童生徒の読書活動は回復傾向にあります。しかし、各個人において読書量の差もみられることから、その改善に向けた施策を推進していく必要があります。

本町における読書活動の現状は以下のとおりです。

（表1）こども園児童が本を好きな割合（前々回～平成27年度、前回～令和2年度、今回～令和7年度）

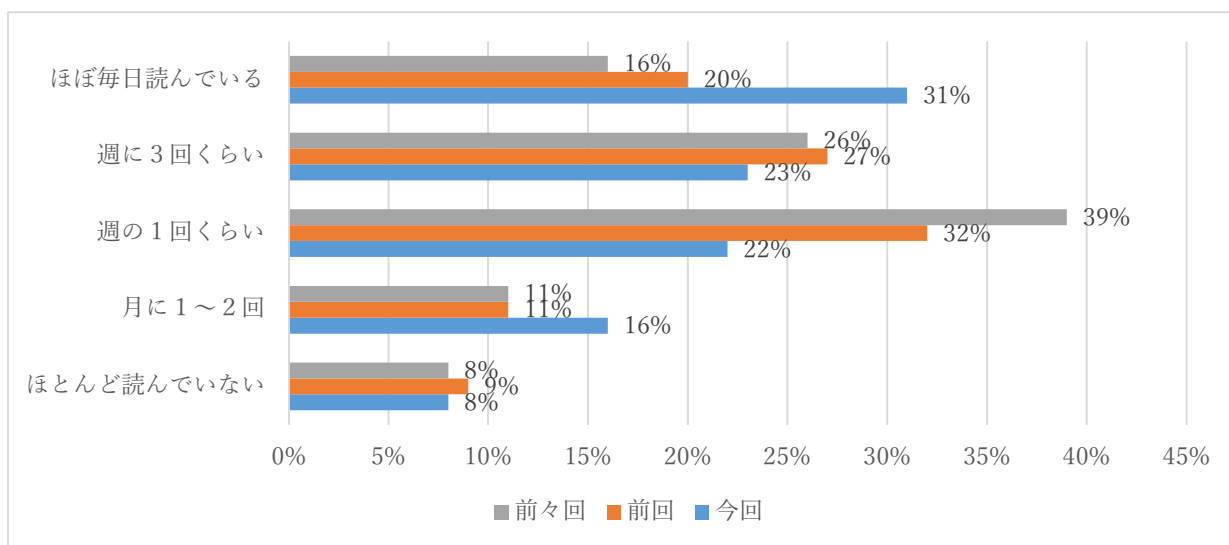


（子ども読書活動に関するアンケート：西会津町教育委員会）

（回答者数：今回～64人、前回～99人、前々回～100人）

※「好き」が前回より12ポイント多くなっている。

(表2) 家庭で本を読んであげる割合 (前々回~平成27年度、前回~令和2年度、今回~令和7年度)



(子ども読書活動に関するアンケート：西会津町教育委員会)

※「ほぼ毎日読んでいる」割合が前回より11ポイント向上している。

※週に3回以上子どもに絵本を読んであげている家庭が前回より7ポイントふえている。

(表3) 西会津町の小・中学校の児童生徒の1か月あたりの読書冊数 (毎年11月の調査)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小学校平均冊数(平成27年度)	6.2	8.7	6.4	7.9	8.3	4.0	6.9
(令和2年度)	20.6	5.4	4.3	5.6	3.5	4.3	7.2
(令和7年度)	7.0	20.5	11.0	7.8	8.6	10.8	11.0
中学校平均冊数(平成27年度)	3.5	2.8	2.0				2.8
(令和2年度)	1.9	5.4	3.4				3.5
(令和7年度)	4.2	2.3	3.1				3.3

(「読書に関する調査」：福島県教育委員会より)

※1か月の平均読書冊数は小学生で増加している。

(表4) 小・中学校図書館図書充足率 (令和7年4月1日現在)

	図書標準冊数 (冊)	蔵書冊数 (冊)	充足率 (%)
西会津小学校	6,520	6,559	101%
西会津中学校	6,720	19,289	287%

(西会津中学校図書館調べ)

※図書標準冊数とは、国が公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたものです。

(表5) 西中図書館の利用者数・貸出冊数

	小学生		中学生		一般	
	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数
令和元年度	3,559	9,274	530	1,063	1,940	6,168
令和5年度	2,690	8,937	444	668	2,147	6,850
令和6年度	2,920	10,292	407	594	2,050	7,202

団体		合計		来館者数
貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	
102	892	6,131	17,397	8,652
146	518	5,427	16,973	7,942
140	646	5,517	18,734	8,508

(西会津中学校図書館調べ)

※コロナ禍により減少していた貸出冊数が増加に転じています。

3. 第三次計画の数値目標と実績

(1) 児童・生徒の1ヵ月あたりの平均読書冊数

	《計画前》 令和2年	《目標》 令和7年	《実績》 令和7年
小学校児童	7.2冊	9冊	11冊
中学校生徒	3.5冊	4冊	3.3冊

(2) 西中図書館の利用者数・貸出冊数

	《計画前》 令和2年		《目標》 令和7年		《実績》 令和7年	
	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数	貸出人数	貸出冊数
小学校児童	2,169	6,507	2,500	8,000	2,295	7,675
	681	1,686	800	2,000	369	602
中学校生徒	681	1,686	800	2,000	369	602
	681	1,686	800	2,000	369	602

4. 計画の位置づけ

第4次西会津町子ども読書活動推進計画は、子どもの健やかな成長に資するため、地域全体で西会津町の子ども読書活動推進に努めるという基本理念のもとに、「西会津町総合計画」及び「第五次福島県子ども読書活動推進計画」、令和5年3月に策定された国の「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」などと整合性を図りながら、子どもの読書活動を推進していきます。

5. 計画の期間

令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

今後の社会情勢をふまえ、適宜、計画事業の適切な見直しを行うとともに、新たなニーズに対応する事業を積極的に実施していくなど、計画の効率的かつ弾力的な運用に努めます。

第2章 基本方針

1. 子どもが読書に親しむ機会の提供と充実

子どもたちが読書の楽しみを実感するためには、発達段階に応じた本との出会いの場や読書に親しめる機会を家庭・こども園・学校・図書館が連携を取りながら提供することが大切です。

そのために、乳幼児期は家庭・こども園・図書館が、小中学校期は家庭・学校・図書館が連携し子どもが読書に親しめる機会の提供に努めます。

また、西中図書館がこれまで実施してきた「おはなしの会」等は、読み聞かせボランティアと連携しながらさらなる充実を図ります。

2. 子どもの読書環境の充実

子どもに「読みたい」という意欲を起こさせるような本を身近に整備する読書環境づくりに努めるとともに、すべての子どもが、いつでも、どこでも、読書に親しむことができる環境づくりを目指します。

また、調べ学習や総合的な学習の時間への対応を図るため、調べ学習用資料の充実に努めます。

3. 子どもの読書活動への理解の促進

地域全体で子どもの読書活動を推進するためには、西中図書館からより多くの情報を発信するなど、子どもたちが読書に関心を持つような取り組みが重要になります。

地域の皆さんに子どもの読書活動の大切さを理解していただくため、広報、啓発に努めます。

第3章 子ども読書活動推進のための方策

1. 家庭における読書活動の推進

子どもの読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、家庭の果たす役割は非常に大きく、乳幼児期のわらべうたや絵本の読み聞かせなどの「耳からの読書」は、その後の読書に大きな影響を及ぼします。家庭においては、絵本や物語等の読み聞かせをしたり、家族で図書館に行ったりするなどにより、子どもが本に親しむきっかけをつくることが大切になります。

決まった時間に家族で読み聞かせや読書をすることで読書習慣の形成を図り、読書を通して子どもが感じたことや考えたことを家族で話し合うことでコミュニケーションを図るなど、読書に対する興味や関心が高められるようにしていくことが望まれます。

○ブックスタートと連動させ、乳幼児に読み聞かせを行う「おひざにだっこの会」の実施をさらに推進します。

⇒乳幼児健診時等で絵本の大切さを保護者に理解してもらうよう努めるとともに、アンケートを実施しながら改善に努めます。

○引き続き「図書館だより」の発行とケーブルテレビで放映している「新刊案内」を継続するとともに、新刊紹介や推薦本の紹介だけでなく、読み聞かせや読書の大切さも呼びかけます。

○保護者を対象とした本に親しむための事業を実施します。
⇒就学時健診等に事業と組み合わせながら実施します。

○乳幼児期からアンケートを実施し、読書活動の推進を図ります。
⇒今後もアンケート調査を継続しながら事業の見直しや図書購入等の参考とします。

2. 図書館における読書活動の推進

図書館は、豊富な図書の中から自分が読みたい本を自由に選択し、知る喜びと読書の楽しみを感じることができる場所であり、保護者にとっても子どもに読ませたい本を選択し、子どもの読書について相談できる、最も中核的な役割を担っています。

子どもと本を結びつける様々な事業を実施することにより、本に親しむ機会を増やすことが重要です。

○西中図書館と小中学校読書活動の連携をさらに推進します。

⇒小中学校の「学校図書館教育計画」等に基づき、西中図書館と小中学校読書活動の連携をさらに推進します。また、年2回の小学校図書室の整理を継続するとともに、中学校においては、ビブリオバトルで選んだ図書を他の生徒に紹介するなどにより読書活動の推進を図ります。

○西中図書館で整備されていない図書や資料については、県立図書館の移動図書館や相互貸借を活用し利用者に提供します。

⇒年2回の移動図書館の利用を継続するとともに、小中学校と連携した学校図書館活動支援セットの貸出を活用します。また、必要な図書について教員との情報交換を行っていきます。

○「おはなしの会」に加え、本に親しんでもらうための各種事業をさらに推進します。

⇒読書ボランティアとの連携を密にし、開催回数の増や内容の充実に取り組みます。

○読み聞かせ講座を開催するなど、引き続き読書ボランティア団体の活動を支援します。

⇒読書ボランティアとの連携が重要であることから、研修会等を開催しレベルアップを図るとともに、ボランティア団体の会員増などの取り組みを支援します。

○発達段階に応じたブックリストを作成し配布します。
⇒ブックリストを作成し、おすすめ本として学校やこども園へ配布します。また、リストの本を多数読んだ児童生徒を表彰し読書活動を推進します。

○銀行通帳のように読んだ本の書名や金額が記帳される読書通帳を推進し、利用者の読書意欲の向上を図り、西中図書館利用者数及び貸出冊数の増加に努めます。

3. 学校等における読書活動の推進

(1) こども園

こども園は、幼児期に様々な絵本との出会いを通して子どもの豊かな心や創造力を育むことを目指しており、絵本や紙芝居等を活用し読み聞かせを実施しています。

今後も、こども園幼児が絵本にふれあう機会をより多く設け、楽しく興味を持つよう努めるとともに、保護者にも読書活動の意義や大切さを広く伝えていきます。

○大型絵本を活用しこども園幼児への読み聞かせをさらに推進します。
⇒読書ボランティアを活用し、継続しておはなしの会を実施していきます。

○保護者が集まる機会に本に親しむための事業を実施するよう努めます。
⇒保育参観等の機会をとらえ、保護者に読み聞かせの大切さを説明するとともに、保護者自らが読み聞かせできる機会を設け、保護者のニーズを把握しながら、読み聞かせ講座等を開催し保護者の関心を高めていきます。

(2) 学校

子どもの読書習慣を形成していく上で、学校はかけがえのない大きな役割を担っています。学校、とりわけ小・中学校は、子どもが生涯にわたる読書習慣を身に付ける大切な時期であり、子どもの読書活動を推進する最も重要な場所です。

児童生徒が生涯にわたり読書習慣を身に付け、読書の幅を広げるため、読書の機会の充実や図書の紹介、読書経験の共有により、様々な図書に触れる機会を確保しなければなりません。

○「おはなしの会」は放課後子ども教室と連携を図りながら実施するよう努めます。
○昼読の「おはなしの会」をさらに推進します。
○中学校では、ビブリオバトルに取り組むとともに、その模様をケーブルテレビで紹介し読書活動の推進を図ります。
○小中学校教員と連携し、調べ学習用資料のさらなる充実を図ります。
○各種推薦図書を紹介し、児童生徒の読書活動のさらなる推進を図ります。
⇒西中図書館を活用した調べ学習ができるように教員との連携に努めます。また、推薦図書を児童生徒が紹介するなど読書活動を推進していきます。

第4章 関係機関との連携

子どもの読書環境の整備と支援に関しては、本計画を効果的に推進していくために、県教育委員会や県立図書館及び他市町村等の関係機関との連携を推進します。特に、県立図書館で行っている移動図書館の更なる利用を呼びかけていきます。

第5章 啓発・広報

子どもの読書活動を推進するため、町広報紙での「図書館だより」、町ケーブルテレビで毎週放映している「新刊案内」などに小中学生にも出演してもらいながら、図書案内だけではなく、読書活動の意義や重要性について広く町民への啓発・広報に努めます。

第6章 数値目標

本計画を推進し、その状況を把握し、今後の活動の指針とする目標として、以下の数値目標を設定します。

1. 児童・生徒の1ヵ月あたりの平均読書冊数

	現 状 値 (令和7年)	目 標 値 (令和12年)
小学校児童	11.0冊	12冊
中学校生徒	3.3冊	4冊

※目標値を目指すとともに、併せてリーディングスキルの向上を図るため多ジャンルへの読書誘導を行うこととする。

2. 西中図書館の利用者数・貸出冊数

	現 状 値 (令和7年)		目 標 値 (令和12年)	
小学校児童	貸出人数	2,295	貸出人数	2,500
	貸出冊数	7,675	貸出冊数	8,000
中学校生徒	貸出人数	369	貸出人数	500
	貸出冊数	602	貸出冊数	1,000

資料

子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成十三年十二月十二日法律第百五十四号)

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども（おおむね一八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(以下「子ども読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定した時は、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。